

講演会

# 原発、なぜやめられない？

## ーチェルノブイリと福島から考えるー

チェルノブイリと福島の原発事故を経験しても、  
なお、原発をやめないのは、なぜ？  
事故後、行政や住民・市民はどう動き、  
今はどうなのか。  
被ばくの実態は？

日本は48基、世界では426基(2014年1月1日現在)  
もの原発があり、  
さらに建設中81基、計画中100基！  
日本が、世界が、原発をやめない理由を  
ご一緒に考えてみたいと思います。

講師: **西尾 漠さん**

(原子力資料情報室共同代表)

\* 2015年 **2月22日(日)** 14:00~16:30

\* **柳沢公民館視聴覚室** \* 資料代 100円

主催 **原発はいらない西東京集会実行委員会**

連絡先 谷川 [tanigawa1012@softbank.ne.jp](mailto:tanigawa1012@softbank.ne.jp)  
Tel 090-7832-2524(18時~21時)



## 西尾漢さんの著書

(著作物が多いので 2000 年以降に出版された単著に限りしました)

- ・私の反原発切抜帖 歴史物語り
  - ・なぜ即時原発廃止なのか
  - ・どうする？放射能ごみ 実は暮らしに直結する恐怖 増補改訂新版 (プロブレムQ&A)
  - ・原発は地球にやさしいか 温暖化防止に役立つというウソ (プロブレムQ&A)
  - ・むだで危険な再処理 いまならまだ止められる (プロブレムQ&A)
  - ・どうする？放射能ごみ 実は暮らしに直結する恐怖 (プロブレムQ&A)
  - ・なぜ脱原発なのか？ 放射能のごみから非浪費型社会まで (プロブレムQ&A)
- (以上 緑風出版)
- ・日本の原子力60年トピックス32 (原子力資料情報室)
  - ・Q&Aで知るプルサーマルの正体 (原子力資料情報室)
  - ・脱原発しかない バクとマサルのイラスト・ノート 増補新版 (第三書館)
  - ・原発を考える50話 新版 (岩波ジュニア新書) (岩波書店)

## 原子力資料情報室のあゆみ

(原子力資料情報室のホームページから引用・抜粋)

- 1975年9月 設立。
- 1976年1月 『原発斗争情報』の発行を「原発・再処理工場反対運動情報・連絡センター」から引き継ぎ、18号から編集・発行。
- 1987年5月 高木仁三郎が代表に就任。 『Nuke Info Tokyo』創刊
- 1988年6月 第1回公開研究会「プルトニウム空輸の危険性」を開催。
- 1994年6月 青森市で「再処理を考える青森国際シンポジウム」を開催。
- 1994年10月 ベラルーシ共和国ミンスクでシンポジウム“Acute and Late Consequences of Nuclear Catastrophes: Hiroshima-Nagasaki and Chernobyl”を開催。
- 1996年4月 『脱原発年鑑96』を刊行。以後『年鑑』を毎年刊行。
- 1997年12月 高木仁三郎代表がプルトニウム利用の危険性を世界に広く知らせた科学的・社会的貢献により ライト・ライブリフッド賞をマイケル・シュナイダー氏と共に共同受賞。
- 1998年9月 ワークショップ「持続可能かつ平和なエネルギーの未来」をソウルで開催
- 1999年 JCO臨界事故総合評価会議を立ち上げる。2000年に報告書「JCO臨界事故と日本の原子力行政」を刊行、2005年に「青い光の警告」を刊行
- 2000年10月 高木仁三郎 死去(享年62歳)
- 2001年 メールマガジン『CNIC EXPRESS』創刊
- 2003年 原発老朽化問題研究会発足
- 2005年 高木仁三郎メモリアル「『市民科学のこれから』—フランク・フォン・ヒッペル教授を招いての講演と討論」を開催
- 2010年10月 「高木仁三郎 没後10年のつどい 希望へと歩みつづける」を高木仁三郎市民科学基金、高木学校とともに主催
- 2011年3月 Twitter、Ustream、facebookでの情報発信を開始
- 2012年4月 放射能測定室“タニムラボ”を開設
- 2012年12月 フリーペーパー『別冊 TWO SCENE』を創刊
- 2013年4月 韓国 教保教育文化財団から長年の脱原発活動を評価され、国際部門優秀賞を受賞